

# 院内感染対策だより

第 59 号

R5. 3. 17

## 血液浄化センターでの新型コロナウイルス感染症対策について



新型コロナウイルス感染症の第 8 波も患者数の減少が実感されるようになりました。2023 年 3 月からはマスク着用の考え方の見直し、5 月からは 5 類感染症への移行が準備されています。すこし落ち着いた時期だからこそ、私たちが取り組んできた活動を振り返りたいと思います。

### 【透析患者の情報共有】

**県全体の情報共有**：富山県透析医会で作られたネットワークをもとに 2022 年 8 月に LINE グループが立ち上げられ、第 7 波・第 8 波の情報共有が行われてきました。この連携を使って呉西、新川、富山地区のクラスターなどの情報共有や入退院調整に利用されました。

**氷見市の情報共有**：氷見市内の病院間では電話にて情報交換を行いました。当初は重症化予防の観点から入院管理が推奨されており、当院では 2022 年 7 月から 9 名（自院 5 名）の透析患者が入院療養を行いました。また軽症例での通院治療が認められ、3 名（自院 2 名、1 人は 1 泊入院後に通院管理）を外来にて透析しました。

### 【患者移動の手順】

病院入り口で体温測定に加え、血液浄化センターに入室の際にも再び体温測定を行い発熱者のスクリーニングを行いました。COVID-19 感染者の院内移動の際には総務課スタッフにエレベーターの人払いをしてもらいました。通院患者でも移動経路にパーテーションを設置したり、自動扉を止めて人払いをしてメモリアルホール横の出入口から患者を入室させる必要がありました。

### 【血液浄化センター内での空間的隔離】

センター内の陰圧個室 2 部屋の前にビニールカーテンを張り、前室を作成し、グリーン、イエロー、レッドのゾーニングを行いました。また非感染者との動線の交わりを減らしたり、クラスター予防の目的でロックスカールームや患者休憩室は使用を中止し透析患者が長時間留まれない状態としました。



### 【血液浄化センター内での時間的隔離】

COVID-19 感染の透析患者は月水金の午後 3 時からの透析実施とし、時間的隔離を行いました。センターに入室する際には、非感染者の後に入室し、透析終了も非感染者のいなくなった環境で病棟へ移動したり帰宅の準備が行われました。

### 【最後に】

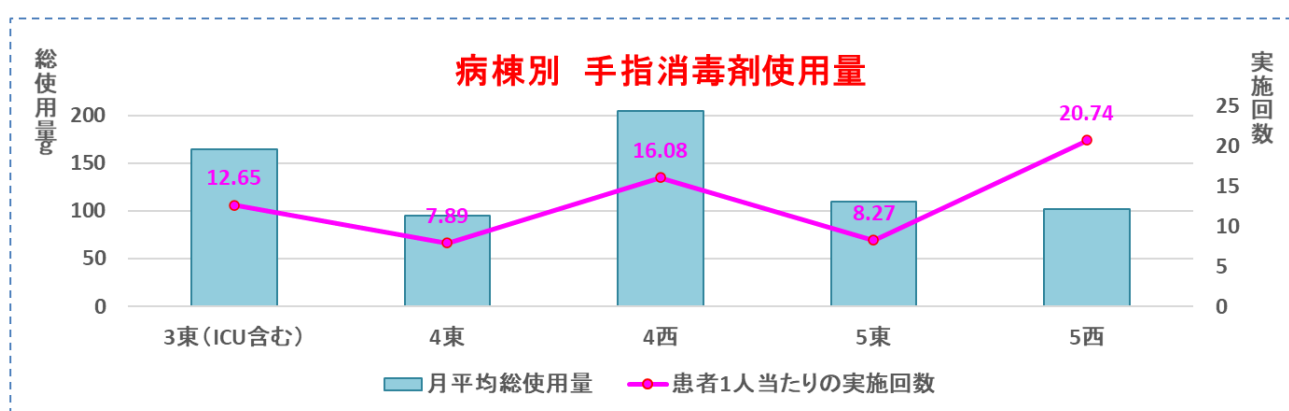
このような取り組みで、当院血液浄化センターではクラスターが発生することなく現在も透析治療を継続することができています。振り返ってみると事務スタッフの協力をいただいたり、透析スタッフも時間を延長して勤務したり、大変な状況を乗り越えてきた印象があります。今後も H5N1 型のインフルエンザウイルスなど、世界中には注意をしなければならない感染症が存在しています。今回の新型コロナウイルス感染症対策を経験したことで、次なる危機にも備えていけるように感じています。（記：腎臓内科 齋藤淳史）

# 看護部感染呼吸リンクナース会:活動報告

感染防止対策の基本である手指衛生は、皆さんの感染防止への意識を反映していると考えられます。そのため今年度の活動に手指衛生剤の使用量アップを掲げました。

各病棟の看護師が患者1人当たりの実施回数は平均13.5回/日であり、前年比+5%にとどまりました。月ごと病棟の全体使用量は前年比-18%と減少しました。COVID-19の影響で病院全体の手指消毒剤の払い出し個数は22%増加していました。

3年間にわたりCOVID-19が蔓延し、昨年末から年始にかけて当院でもクラスターを経験しました。今後もいつ何時どのような感染症が流行するかわかりません。基本である手指衛生遵守はもちろんのこと、様々な感染対策を組み合わせながら実施し、皆さんと一緒に感染症を食い止め、広げないようにしていきましょう。(記:リンクナース長 南 康一)



## 手指衛生優秀者部署発表

< 選考基準 > ICTで検討し、選出

🌸 **看護部個人表彰:** 個人使用量が多かった、よく手指消毒行動をしているなどを評価

**部門表彰:** 昨年度と比べて使用量が増加、COVID-19対策に尽力しているなど評価



部署	氏名	部署	氏名	部署	氏名
3東		4東		4西	
5東		5西		外来	
HD		手術		補助員	
部門					
リハビリテーション部		中央臨床検査部		防災センター	

🌸 **正しいタイミングで正しい量で手指消毒を実施し、感染拡大を防止しましょう**